

埼玉県知事

様

埼玉県の病院で働く医師を増やしてください。

請願趣旨

日本の医師数がOECD諸国の平均(3.1人/人口千人)と比較して、2.2人/千人(2010年)と少なく、政府も医学部の定員を増やす方針を打ち出しています。しかし、日本医師会の推計では、15年たっても2.8人/千人とOECD諸国の平均にも追いつきません。そのため、日本の医師が診察している患者数は、OECD諸国の医師の3倍以上です。

こうした日本の医師事情の中で、埼玉県が人口比で最も少ない(1.5人/千人)状態です。医師数だけでなく看護師等も全国平均(687人/人口10万人)を大きく下回る445人/人口10万人です。一般急性期のベッド数も、全国平均が712床/人口10万人なのに対して、埼玉県は489床/人口10万人です。埼玉県は、全国最下位の医療体制(救急医療や医師・看護師数)の状態にあります。

埼玉県は高齢化のスピードが全国で最も早い上に、既に高齢者(65歳以上)人口は116万人と全国で6番目に多くなっています。(埼玉県の高齢者人口より県民が少ない県は12県)必然的に医療必要度は高くなり、埼玉県が毎年実施している県民世論調査でも、県民の要望の第1位が「高齢者福祉の充実」、第2位が「医療体制の整備」で、過去4年間不動の要望トップです。

私たちは、埼玉県民が直面している医療提供体制の立ち遅れは、今後さらに需要に追いつかない事態へと悪化していくことに強く危機感を持っています。現在すでに、県内の救急受け入れ態勢はきわめて脆弱であり、小児はもとより、一般の救急患者の受け入れ先を探すのに多くの時間と労力が割かれています。

こうした事態に誠実に目をむけ、真剣に対策を考え、今から手を打たなければ、医療従事者の努力に頼るだけでは、とても間に合わなくなるでしょう。このような状況を一刻も放置しておくわけには行きません。まして、東日本大震災では、高齢化が進み医療過疎といわれる限界集落で被害が甚大であった事実を目の当たりにした今、高齢化対策と医療提供体制の充実をはかることを車の両輪のように重点とすべきです。このようなことから、下記の事項の実現を強く求めるものです。

請願事項

- 1. 埼玉県内に国公立の医学部をつくってください。**
- 2. 当面、県内の病院に勤務する医師を増やすための措置を講じてください。**
- 3. 県出身の医学生が埼玉県に戻って研修できるように奨学金制度を拡充してください。**

氏 名	住 所